

## 第1期

令和7年度弘前大学大学院人文社会科学研究所（修士課程）

入学試験問題（考古学）

1. 以下の語句について5つ選び、考古学的な所見・観点から200字程度で説明せよ。

### 【設問意図】

本設問は考古学全般、あるいは本学で重視する研究テーマのなかで、学部学生で習得すべき基礎的な用語について問うものである。

### 【解答例】

9つの語句を挙げたが、解答例ではこのうち、受験者が解答したもの2点を挙げ、解答例を示す。

放射性炭素年代測定法：ウィラード・リビーが1940年代に開発した年代測定法である。大気中で生成される炭素14は生物に取り込まれるが、死後は放射性崩壊により減少する。この減衰（半減期約5730年）を利用し、木炭・骨・種子などの残存量を測定して年代を求める。考古学では較正を行い暦年代に換算し、遺跡の編年や文化変遷の解明に用いられる。

砂沢遺跡：青森県弘前市に所在する弥生時代前期の集落遺跡である。東北北部の弥生時代前期を代表する標式遺跡の一つである。また、水田跡や炭化米、籾圧痕土器の検出によって弥生時代前期の水稻農耕の存在が裏付けられた。これらの資料は、北日本における弥生文化の受容過程や在地文化との関係を考える上で基礎資料となっている。

2. 以下の文章を読んで、設問に答えよ。

### 【設問意図】

本学が重視する学融合研究への積極性、および国内外に視野を広げたグローバルな考え方を持っているかを問うものである。

### 【解答例】

(1) 縄文時代の遺跡は、海に面した丘陵や河川沿いの台地に多く立地し、竪穴住居や墓地、土器・石器などが出土する。貝塚からは魚類や鳥類、シカ・イノシシなどの骨が見つかり、食料資源がうかがえる。一方、衣服や植物質食料、木製建物は腐朽しやすく実態は不明な点が多い。しかし、河川や湿地に隣接する遺跡では、空気に触れず酸化しないため有機物が保存され、近年そのような低湿地遺跡の発掘が各地で進んでいる。

(2) オニグルミ、トチノキ

(3) 青森県つがる市に所在する縄文時代晩期の亀ヶ岡遺跡が挙げられる。明治期には19世紀末

に蓑虫山人や佐藤薊らによって知られるようになり、その後、佐藤伝蔵ら東京帝国大学の調査により、植物遺体が残る、いわゆる泥炭地遺跡として、日本考古学黎明期を代表する遺跡の一つとなった。低湿地環境に由来する良好な保存状態により、有機質の漆製品が現代まで残存した点も重要である。縄文時代晩期にはすでに高度な漆工技術が確立しており、椀・櫛・腕輪・容器など多様な製品が確認されている。遮光器土偶に象徴される精巧な土偶や土器のほか、赤色顔料を用いた装飾土器、漆製品などが出土し、「亀ヶ岡文化」と呼ばれる高度な精神文化・工芸技術を示すことで明らかとなった。